

第一新聞

発行所
第一未来館
Tel:088-655-5001

第153号

謹賀
新年

新年の挨拶「あけましておめでとう」

新年あけましておめでとうござい
ます。今年は何年(みどし)。蛇
は古来より「再生」や「成長」を
象徴する存在です。脱皮を繰り返
して成長する蛇のように、私たち
も新しい気づきを得ながら成長し
ていきたいと思います。

擬人化する人間



(日下先生)

さて、「発明」という言葉があり
ます。発明は今までにない「もの
」を生み出すことです。しかし、「
地球上に存在しない物質を使っ
て「もの」を作るのはほぼ不可
能です。つまり、今までにない「も
の」を作り出すためには、既に存
在するものの見方を変え、新たな
価値や使い方を「発見」しなけれ
ばなりません。自分が今まで重要
と思っていなかったことや、当
り前すぎて見逃していたことの中
に、その新たな発見は隠れている
のではないのでしょうか。そのため
には、様々な視点から見たり、視
野を広げたり狭めたりして見るこ
とで、今まで価値がないと考えて
いたことへの価値に「気づく」こ
とが重要です。

勉強においても同じことが言え
ます。全ての教科において重要な
ことは授業中に出てきます。です
から、授業中に先生の言葉や問題
の背景から、学習での「気づき」
を磨くことが大切です。さらに、
家庭での演習の中から、あるいは
普段の生活の中の何気ない出来
事からも学習の「気づき」に出会
うことがあります。この「気づき」
を積み重ねることで、学力は大
きく向上するのです。しかし、「気
づき」は受け身では得られません。
能動的に学び、自分の課題を四六
時中何気なく意識していること
が、新たな「気づき」につながる
のです。

今回個人のお話を少ししたい
と思います。実は先日、私の友人の
藤井義允がついに単著(一人だけ
書いた本)を出版しました。それは『擬
人化する人間——脱人間的な文字
プログラム』(朝日新聞出版)とい
う本です。内容は小説ではなく、皆
さんが聞き慣れないジャンルであ
る文芸評論です。ピンと来ない人
が多いでしょうから、以下本文を引用
します。

はじめに——人間ではない「私」
自分の存在の希薄さを常に感じ
ながら生きてきた。

感情も、感覚も、何もかも。僕の中
にあるものは、まるで全て作りもの
のようではないか。そんな違和感を
持つて過ごしていた。

しかし厄介なことに、それでも悲し
みや怒りや嬉しさというような人間
的な感情は確然と存在しており、矛
盾する二つの感覚を抱えていた。

つまり「人間らしさを持った「人間」
ではないもの——「人擬き」の感覚
が僕にはある。

一般的にイメージされる「人間」
とは離れた場所に存在しているよう
な気がしていた。それがどこに起因
するのか。長い間、僕は自分自身の
個人的な性質からくるものだと思っ
ていた。それゆえその感覚を自分の
中に留めてきた。時に「現実」との
折り合いがつかず、そのせいで辛い
思いをした覚えもある。

だから、そんな、人間ではないが
人間らしさを持つ想像力の作品に気
持ちは揺さぶられた。そうした作品

を発表している作家が現在では多
く出てきている。

そんな作品を読み解きながら、
僕自身は多分「自分とは何か」を
考えていたのだと思う。どうしよ
うもなく「人間」であるにもかか
らず、どうしようもなく「偽物」
である感覚。この二つの往還の中
で逡巡があった。人間を知るため
に人間が書いた言葉を求めていた。
そこに「本物」があるのでは
ないかと思つて。

そして様々な表現者たちの言葉
に触れるにつれて、実はこれは僕
だけの感覚ではないのかもしれな
いと次第に思つてようになった。

近年、あらゆる創作物において「人
間ではない存在」というイメージ
は多くなつてきている。

幽霊、機械、偽物——虚構。
いずれにせよ「本物」ではないも
の。現在、僕と同様の感覚を持
った表現者たちが徐々に現れ始め
るようになってきたのだ。

そのような感性が生まれる背景
には、もしかしたら僕たちが生き
ている時代の空気のようなものが
関係しているのかもしれない。テ
ィストピア。今、そんな世界が作
品の中で多く現れ始めている。今
の日本に蔓延するのは「暗い」雰
囲気だ。僕たちを押しさえつけるよ
うな暗いもの。フィクションはそ
んな雰囲気や反映している。

要するに複数の現代小説を扱
いながら、現代社会を読み解くとい
った内容です。興味を持っていただ
けたら、是非友人のデビュー
作を「一読」されたら私にとつて
も幸いです。

(宇都宮先生)

最後の大きな休み



新年あけましておめでとうござ
いませう。2025年がいよいよ幕
開けとなりました。

冬期講習会で真剣に学習した内
容をしっかり定着させ、今後の
勉強やテストなどに生かしてい
きたいですね。

また、小6・中3生の子供たち

にとつては受験が目前に迫つてき
ています。まずは体調管理を一番
に考えて、食事・睡眠などをしつ
かりとり、風邪やインフルエンザ
にならないように心がけましょ
う。冬期講習会でのみんなの全身
全霊の努力は本物だと確信してい
ます。受験までに培った知識や経
験は最大の武器になります。受験
本番で緊張がゼロの人は少ないか
もしれませんが、これまでみんな
が積み上げてきたものを自信に変
えて、100%の力を出し切って
きてください。徳島第一ゼミの先
生全員、心より応援しています。

頑張れ、徳島第一ゼミ生!!!
(竹田先生)

ゼミ/中学部だより



(竹田先生)

さて、2024/25年冬期講
習会が始まり、特に中3生の皆さ
んは冬休み明け早々にある第3回
基礎学力テストへの追い込みを現
在にどんどんしていることと思いま
す。自分の高校進路を決定させる
大きな指標となるものが基礎学力
テストですので、勉強を積み重ね
て下さいね。そこで、これからの
時期にやっておいてほしい勉強の
アドバイスをしておきます。

まず英語は日々の基本文法・英
単語の確認はもちろんのこと、原
稿用紙一枚程度の長文を毎日コッ
コッ読んで、英語の読解力を付け
ていきましょう。

数学は小問集合が100点中4
0点を占めているので、それらを
いかに正確に解くかが鍵になりま
す。テスト形式の問題集や冬期講
習会のテキストを活用して、ケア
レスミスのないようにしておきま
しょう。

国語については、新聞等の内容
から175字以上200字以内で
要約できるようにしたり、国語の
文章問題の内容から自分はその

うに考えているか考察を書いてみ
たりと、10分ほどの制限時間を
設けて書く訓練をしておきましょ
う。そして、読解力を鍛えるため
に文章問題の内容や要点まとめに
もチャレンジしてみたい。

理科は、基礎内容の徹底は「5
科のまとめ」や「整理と対策」、そ
して「keyワーク」でしっかりと
と復習しておくことはもちろんの
こと、実験や観察の内容が入った
問題や計算問題にもチャレンジし
ておきましょう。

最後に社会は、基本的な流れは
理科と同様ですが、最近では資料の
読み取りと基礎知識を活用する記
述問題が多く出題されるので、統
計資料問題、年表問題を特に確認
しておくようにして下さい。

これからの時期、高校受験に挑
む中3生の皆さんに向けた勉強応
援のメッセージを送ってみました
。悔いのないように努めて下さ
い。

最後に中学生・現小6生(新中
1生)の皆さんに共通してお伝え
したいことがあります。それは「自
分自身で積み上げた努力は絶対に
実る!」ということ。ときに
は思い切り晴らしをして別
よいのですよ。ただ長すぎると
けません。心と体を時に
はリフレッシュして、目標へ取り
組み、そして新年度に向けて先取
り学習を進めていきましょう。私
達は「精一杯の君たち」を応援し
ています。

(工藤先生)

笑顔で過ごすために



明けましておめでとうございま
す。皆さん、良い年越しを過ごせ
ましたか。今年一年もみんなが
明るく楽しく健康に過ごしましょ
う。

一年を良い年にするために笑顔
が欠かせませんが、どんな時で
も明らかに笑っているというの

なかなか難しいことです。悲し
いときにまで無理に笑う必要はな
く、泣きたい時には泣けばいいと
思います。では怒りを感じたと
きはどうでしょうか。新年早々こ
んな話をするのはよくないかもし
れませんが、怒りのままに感情を
ぶつけて不用意に人を傷つけるこ
とのないように、怒りっぽい自覚
のある人は今年の目標をアンガ
マネジメントにしてみました。い
かでしょうか。

「短気は損気」という言葉があり
ますが、実際に怒りっぽい人は損
をする人が多いです。まず人か
ら敬遠されやすいので、信頼関係
を築くのが難しいというデメリット
があります。また、すぐに怒る
ということは、ストレスを感じや
すいということでもあります。さ
らに、トレーニングをしても人よ
り筋肉が付きにくく、ダイエット
しても痩せにくいのだとかなん
か。本人も四六時中イライラして
いても楽しくないでしょうし、と
にかく悪いことはかりですね。

では怒りを感じた時にどうした
らいいのでしょうか。たとえば「怒
って何かを言う前に、深呼吸して
6秒数えると頭が冷える」とい
う方法があります。個人的にはこれ
を実践しても、変わらず怒りを感じ
たので効果はありませんでした
(笑)。「一旦その場を離れ、怒り
が収まるまで別の場所にいる」と
いう方法もあります。その他、そ
もそも怒りを感じずに済むよう
に「不安や悩みは人に相談して解
決を図る」、「多くの趣味や気晴
らしを見つける」など、意識的に穏
やかにいられる工夫をしていくこ
とも大切です。

「笑門には福来る」というよう
に、笑って幸せを感じられる一年
にしたいものです。

(今岡先生)



(今岡先生)

「短気は損気」という言葉があり
ますが、実際に怒りっぽい人は損
をする人が多いです。まず人か
ら敬遠されやすいので、信頼関係
を築くのが難しいというデメリット
があります。また、すぐに怒る
ということは、ストレスを感じや
すいということでもあります。さ
らに、トレーニングをしても人よ
り筋肉が付きにくく、ダイエット
しても痩せにくいのだとかなん
か。本人も四六時中イライラして
いても楽しくないでしょうし、と
にかく悪いことはかりですね。

では怒りを感じた時にどうした
らいいのでしょうか。たとえば「怒
って何かを言う前に、深呼吸して
6秒数えると頭が冷える」とい
う方法があります。個人的にはこれ
を実践しても、変わらず怒りを感じ
たので効果はありませんでした
(笑)。「一旦その場を離れ、怒り
が収まるまで別の場所にいる」と
いう方法もあります。その他、そ
もそも怒りを感じずに済むよう
に「不安や悩みは人に相談して解
決を図る」、「多くの趣味や気晴
らしを見つける」など、意識的に穏
やかにいられる工夫をしていくこ
とも大切です。

「笑門には福来る」というよう
に、笑って幸せを感じられる一年
にしたいものです。

(今岡先生)